

(安城市)

市町村の 基本情報	学校数	小学校 21 校、中学校 8 校		
	地域学校協働活動推進員等の配置状況	統括的な地域学校協働活動推進員	1 人	
		地域学校協働活動推進員	4 人	
		統括コーディネーター	2 人	
	地域コーディネーター	0 人		
	CS 及び地域学校協働本部設置状況	CS を導入している学校数	小 0 校	中 2 校
		地域学校協働本部がカバーしている学校数	小 0 校	中 2 校



(活動の実際)

令和7年度は、桜井中学校と東山中学校の市内2中学校でコミュニティ・スクールをスタートし、地域学校協働活動を推進している。このうち東山中学校の取組を紹介する。

＜推進員の主な業務＞ 東山中は2名の推進員が勤務

① 地域と学校との連絡調整、情報共有

→ 教頭、教務、地域連携教員（5名）と推進員で取組状況や今後の予定などを情報共有する機会として、毎週金曜日に「地域連携部会」を時間割に位置づけ実施している。推進員勤務日は、地域連携ルームに設置してあるパソコンのメール確認や電話・来校するボランティア等の対応なども行っている。

② 地域学校協働活動の企画、調整、運営

→ 学校の現状理解に努め、生徒の充実した学校生活や教職員の負担軽減につながるよう、ボランティアの提案を行う。

③ 地域住民への呼びかけ

→ ひがサポ通信（地域連携だより）を作成し、全教職員と保護者だけでなく、学区内の全戸に回覧板で伝わるようにしている。学区内で行われるコミュニティ協議会や民生児童委員の会合等にも出向き、学区内への制度浸透に努めている。

＜東山中学校の特色ある取組＞

- ・学区内に製造業を中心とした企業が多いことから、企業連携担当の地域連携教職員が中心となり、個人のボランティアだけでなく、企業によるボランティアの受け入れを行っている。
- ・県内外から講師を招き、系統的な研修を行っている。また、教職員だけでなく、保護者や地域の方々も研修に参加できるようにし、地域を含めた社会総がかりで子供の学びを支える土壌づくりを行っている。

(◎成果と●課題)

◎多くのボランティアに学校行事等へ参画いただくことで、学校を知っていただくきっかけとなっている。また、教職員にとっては真に必要なところに注力でき、結果として負担軽減につながっている。

●コミュニティ・スクールなどの言葉は保護者に浸透しつつも、制度理解までは至っていない。今後、地域ボランティアを増やしていくためにも、保護者や地域の皆さんの制度理解が急務である。一足飛びにできることではないので、地域で核となる人たちをとおして広げられるようにしたい。

(関係者の声)

- ・コミュニティ・スクールが始まったことで、より地域の方々とコミュニケーションをとることが増えた。地域の方から学区のことを学ぶこともあり新たな発見があった。(教員)
- ・町内会の行事など地域の活動にボランティアで参加する機会が増えてうれしい。(生徒)
- ・地域や子供のボランティア募集が増えて、学校内外の行事に参加しやすくなったように感じる。(保護者)
- ・ボランティアに参加することで、地域貢献をしていると感じることができてうれしい。(地域ボランティア)